会派視察・研修報告書

会派名　　自民クラブ

代表者名 嶋内　九一

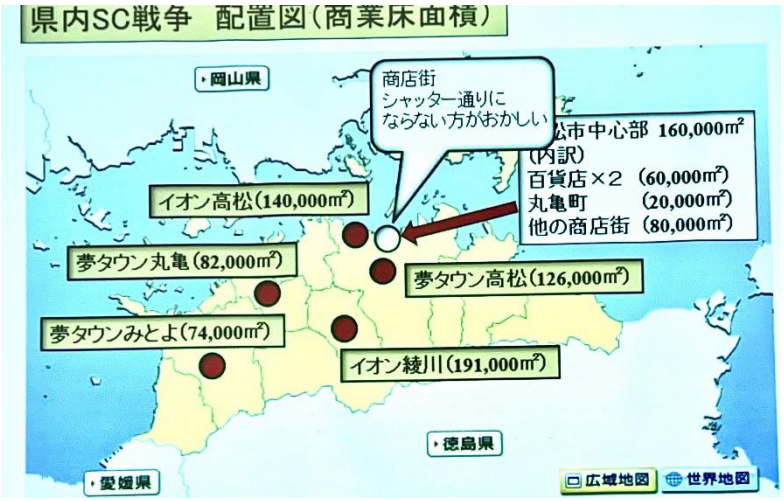
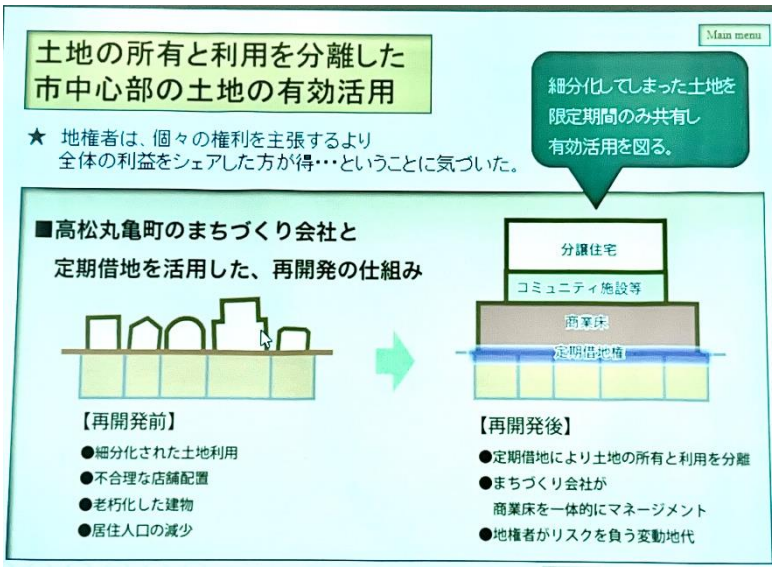
1　日　　に　　ち	令和　5年　7月　6日　（　木　）
2　視　　察　　先 研修名、主催者及び会場	高松丸亀町商店街振興組合 所在地　高松市丸亀町 13-2
3　参　　加　　者	柴田雅也、若尾敏之、吉田企貴、城處裕二、玉置真一、加藤智章
4　調査・研修の テーマ	高松丸亀町商店街 再開発による商店街再生手法について
5　主な内容	高松丸亀町商店街は、地域経済の活性化や観光振興などを目指して、地域住民や事業者が協力して取り組んでいる商店街である。 この視察では、商店街の具体的な取組や成功要因について理解を深めることを目的とした。
6　所感、提言事項、課題等	【柴田雅也】 高松丸亀町商店街振興組合 古川理事長より「高松丸亀町商店街の計画は商店街再生計画ではない。居住者定住者をいかに受け入れるかを高松丸亀町商店街のまちづくり方針としている。」という説明に、自分たちが行うまちづくりにおいても強い印象を持った。現在、困っている事やこれから困るであろう事をビジネスをもって解決するという事は、まちづくりを行政マターとして捉えるのではなく、当事者（地域）が稼ぐまちづくりとして、計画を練る事が持続性のあるまちづくりにつながると認識した。商店街の生産性を高める土地問題の解決のために定期借地権を使ったエリアマネジメントの手法は多治見市においてはとてもハードルが高い事ではあるが、大いな刺激となった。都市（中心市街地）の高齢化が進む中で、生活者の中心市街地への回帰を主眼にして、車に依存しないで歩いて事足るまちづくりを進めることが、快適に生活できる街が創られていく事へと繋がり、商店街の役割としては連携のステージ創りであり、公共性に目覚める必要がある。という説明において、本市の中心市街地のまちづくりに取り組む上でも認識しなくてはならない観点であると思った。

6　所感、提言事項、課題等	【若尾敏之】 高松丸亀町商店街振興組合の古川康造理事長からお話しをお聞きした。まず、高松丸亀町商店街の取組を伺い、商店街を再生するのではなくて人を集めることが優先で、その先に商店街の発展が見えてくるということだった。商店街の上にマンションがいくつも並び、どちらかというとマンションの下に商店街が並んでいるのである。マンションの住人が当然商店街を利用することで商店街も発展するのである。また特筆すべきは商店街が病院を経営（２４時間営業）しており、住人にはいつでも診てもらえる安心感がある。また高齢者施設等に入る必要もなく、自宅で過ごせることは更なる安心感を生んでいる。 多治見市の取組（駅南）については、はっきりと失敗の典型例であると言われた。今まで多治見市からも視察に訪れているはずの高松丸亀町商店街の取組をどの程度理解して参照したかは大いに問われるところであろう。失敗例と言われた駅南をどのように発展させるかは、一から考え直すつもりで取り組まないと実現出来ないと思われる。 【吉田企貴】 定期借地権を活用して商店街の再開発を進めた手法はすさまじいの一言。 さすがは音に聞こえし高松丸亀町商店街と言える。彼らの目指したものが、商店街の再生ではなく、住環境の再構築であった点が成功の鍵とのことであったが、大いにうなずかざるを得ない。多治見市の駅南再開発も、マンションの建設によって周辺地域への好影響は相当あったと思われる。今後、多治見市の中心市街地の活性化を考える上では、コンテンツの充実よりもコンシューマーの定着の方が重要であるということを改めて感じた。特に、駅周辺は住宅需要も旺盛であることから、居住系の再開発は今後も期待できるものと思う。 【城處裕二】 バブル崩壊の前からこの計画を企画されていたとうかがい、その先見性に驚いた。きれいで魅力的な商店街が人を集めるのではなく、人が住み集まっているから商店街が成り立つという観点は目から鱗に感じた。 『歳とれば高松丸亀町に住みたいよね！』と言われるような街を創る。困り事を、ビジネスをもって解決する発想をもって、定期借地権を使った「エリアマネジメント」、住宅整備とテナントミックス、車に依存しない、歩いて事足る街、町営の「かかりつけ医」の仕組み等、視野を広く持ち、まちづくりを考えることが大切であると感じた。

【玉置真一】
地域活性化のため、地域と事業者が共に同じ方向に動いている。
商店街再生で人が集まるのではなく、人々の生活が中心に購買需要があり商店街に活気がみなぎっている。
行政が先導しにぎわいを目指した箱ものを作るのではなく人々の居住がまず先、住みやすい空間、例えば住居と医療機関が同じ建物にあるなど住民ファーストのまちづくりとの印象を受けた。
さらに定期的にイベント等を開催、魅力ある店舗形成により観光客も増え地域経済効果にもつながっている。

【加藤智章】
高松丸亀町商店街は地域住民と事業者が一体となって運営されている。
地域のコミュニティを形成し、共同で商店街を盛り上げる仕組みが取り入れられている、そして市民の参加を促すことで、商店街の運営が持続可能になっているようだった。

高松丸亀町商店街の取組は、地域の活性化とコミュニティ形成に成功している事例として参考になる。
地域イベントや地域資源の活用、地域コミュニティの形成など、商店街が地域と一体となった取組が重要であることを学んだ。
今後は、更なるマーケティングや宣伝の強化、イベントの多様性向上などを通じて、商店街の更なる発展を目指すことが望まれる。

7　写　　真　　等 ※視察の場合は必須、研修の場合は任意	  

※視察先、研修先ごとに１枚作成すること。

※「６　所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。